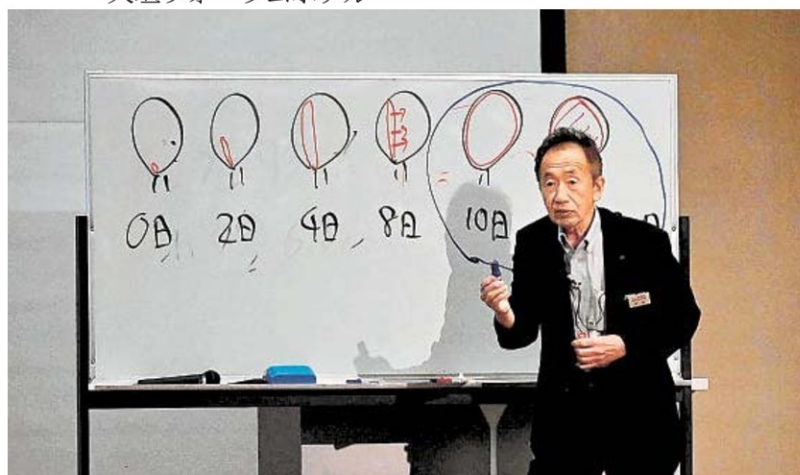


高温障害対策を説明する甲谷潤さん＝大垣市万石、大垣フォーラムホテル



猛暑下のコメ生産法共有

J A全農岐阜が初の研修会

猛暑によるコメへの被害を減らすと、J A全農岐阜(全国農業協同組合連合会岐阜支部)は18日、大垣市万石の大垣フォーラムホテルで研修会を開き、県内のコメ農家ら約150人が安定した生産に向けたノウハウを学んだ。

猛暑の影響でコメの品質低下が全国的に広がり、特に2023年夏の記録的な高温でデンプンが詰まっていない「白未熟粒」が増加したことが、品薄感やコメ高騰の一因になったとする指摘がある。研修会は品

質低下や収量減を食い止めるようと、初めて開催。西村寿文本部長は「コメ不足や価格高騰が、コメ離れや輸入米を望む声につながる。国産のコメを消費者が買ってくれるよう、策を探っていきたい」と強調した。

肥料メーカー「開発肥料」(広島県)の甲谷潤さんが登壇し、田植えの時期を遅らせることや、追肥のポイントなどを五つに分けて説明。ほかに害虫防除の方法をJ A全農岐阜の担当者が紹介し、参加者は熱心に耳を傾けた。(西垣剛大)